



編集・発行

● 宮崎県立図書館

〒880-0031 宮崎市船塚

3丁目210番地1

TEL 0985-29-2911

FAX 0985-29-2491

ホームページ

<http://www.lib.pref.miyazaki.jp/>

「春宵十話」に思う



宮崎県教育研修センター

所長 本田 建次

今年の読み始めに数学の研究者であった岡潔氏の「春宵十話」を再び手にした。これを初めて読んだのは今からもう36年も以前のことになる。

「春宵十話」の初版は昭和38年のことで、すでに41年が経過する。当時のわが国は数年後にやってくることになる高度経済成長期を前にして、ある意味では社会全体が活力にあふれていた。家庭にテレビが入り、人々は物を買うことに走る。その一方では、日本人の心の荒廃が指摘されはじめた時代でもあった。

岡潔氏は「春宵十話」執筆の動機について、「近ごろのこのくにのありさまがひどく心配になって、どうてい話しかけずにはいられなくなったからである。」と述べ、教育を通じての情緒の涵養を力説している。岡氏の心には社会全体にみられるモラルの欠如、青少年の犯罪の増加などに対する危惧があった。

時を隔てた今日のわが国の社会や青少年のありようを見ると、もし岡氏が存命なら、それは氏の目にどのように映ったであろうかと思わずにはいられない。長期化する経済の低迷、情報通信技術の進歩に伴う情報の氾濫など、今日のわが国が抱えている多くの問題は岡氏の時代とは比較にならないほど深刻で、看過できない状況にある。巷には低俗な情報

があふれ、人倫は地に落ちたかのような悲しむべき事件の続発を多くの人は岡氏同様に憂えている。それにもかかわらずこうした現象が後を絶たないというのが今の状況である。

もともと日本人は恵まれた自然環境の下で、四季折々の美しさをとおして豊かで細やかな情操を育んできた。春は花を愛で、秋は月を歌に詠むなど固有の文化を育て、心を豊かにし、潤いのあるものにしてきた。その心を表現するために言葉を練り、磨き、豊かで美しい日本語を作り上げてきた。この豊かで美しい日本語を乗り物として穏やかな人間性が育まれてきた。時代を超えて貫いている縦糸にその時代その時代の横糸を織り込み、紡ぐことで調和のとれた日本の心といわれるものを築き上げ、今日まで営々と繋いできた。

ところが、今日では情報技術の進展や国際化などにより、一部には活字離れという現象が起こり、人々の生活様式は大きく変化し、情緒豊かな美しい日本語も、さらには日本人の心も大きく変わろうとしている。人の在り方を含め、多くの分野で先人の繋いできた文化が次の世代に繋がらないという状況も出てきている。今はまさに時代の縦糸が切れようとする危機に直面しているといわなければならない。

私たちは、時代が変わってもわが国がいつまでも情緒豊かな国であるよう、「このくにのありさまがひどく心配になって」という岡氏の憂いを、今こそ多くの人々の共通の思いとなして、美しい日本の言葉、日本の心を次の世代に渡さなければならない。そのためにも、美しい日本語を大切に、書物に親しむことを勧め、とりわけ古典作品へのいざないに努めていきたいものである。

目次

ニュース&トピックス……………2～4

【特集】

覚えていますか? 「やまびこ」……………5

【連載】

・読書団体紹介21……………6

・レファレンスコーナー……………6～7

みどりの図書館

R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています

子ども読書活動推進のため 館内に検討委員会を設置

県立図書館では、この4月から子どもの読書活動を推進するためのいろいろな事業を円滑にすすめるため、館内に「子ども読書活動推進のための事業計画作成委員会」を設置しました。

具体的な事業内容は、これから検討することになりますが、県立図書館ではこれまでにボランティアグループによる読み聞かせや秋の文化の日にみどりの図書館フェスタを実施してきました。新たにどのような事業ができるか、知恵を出してとりまとめることにしています。

第3回緑陰コンサート

ークリスマス バイオリンとピアノの調べー

昨年の12月20日に、永野真一さん（バイオリン講師）と永野千恵さん（宮崎学園高等学校講師）を迎えて緑陰コンサートを実施しました。「星に願いを」や「クリスマスメドレー」等の演奏と解説を、親子で参加された方々を含め、98名の方々に楽しんでいただきました。



BM書庫の利用風景

BM書庫の紹介

BM書庫とはBook Mobile書庫の略称で、自動車文庫、団体文庫用のための書庫です。

団体文庫は10人以上でグループを作り登録の申請をすると利用ができます。個人貸出はしていません。

閲覧室とは利用方法が異なりますので、利用を希望される場合は、普及課までお尋ね下さい。

郷土資料の実態調査について

県公共図書館連絡協議会調査研究部会では、市町村立図書館・図書室における郷土資料の収集について、共通した取り組みを行い、郷土資料の充実を進め、地域の児童、生徒、住民へ提供していくことにしています。この2月に市町村の郷土資料の実態調査を各支部で各市町村の図書館・図書室のみなさんの意見を聞いたうえで実施します。ご協力をよろしくお願いいたします。



児童室のAVコーナーの利用風景

AVコーナーでビデオ・CDを視聴できます

一般閲覧室では、視聴覚教材である220本のビデオと480枚の音楽CDを鑑賞することができます。ビデオは、棚に置いてある中から選んだ作品を6台のビデオデッキでご覧いただけます。CDも6席で80枚ずつの作品が入ったオートチェンジャーを操作してクラシック等の音楽を楽しむことができます。

児童図書館でも、同じように60本のビデオを2台のビデオデッキで楽しむことができます。

ようこそ県立図書館へ

～県立図書館は学校を支援します！～

総合的な学習の時間の本格的な実施とともに、県立図書館を調べ学習や体験学習等で利用される学校が多くなってきています。そうした学校や子ども達のニーズに応えようと、県立図書館は学校支援の活動に積極的に取り組んでいます。

平成15年度（平成16年2月6日現在集計）も、トータルで47校、1962人のみなさんが県立図書館を利用されました。



平成15年度 学校の利用状況

	調べ学習		見 学		職場体験等	
	校数	人数	校数	人数	校数	人数
幼・保育園	3	205	0	0	0	0
小 学 校	1	52	13	561	0	0
中 学 校	16	697	3	160	7	23
高 等 学 校	0	0	3	261	1	3
計	20	954	19	982	8	26

図書館で調べ学習をしている子ども達の「分かった！」という瞳の輝き、書庫見学中の子ども達の「おう～。」という驚きの声、読み聞かせの絵本を食い入るように見つめる子ども達の表情に、図書館の楽しさや便利さを伝えることができたかなど、図書館員としてのやりがいや喜びを感じています。

図書館を訪れた学校や子ども達から届いたお便りの一例を紹介します！

さて、先日は本校2年生が「地域探検」学習で、貴職場にお伺いして学習させていただきました。大変お忙しい時間帯ではありましたが、子どもたちのために、時間をさいて説明や質問に答えていただきありがとうございました。帰校した子どもたちの笑顔が大変印象的でした。「よくわかりました。」「お仕事って大変なんだ。」「すごかったです。」と思い思いに感じたことや発表したことなどの発表に充実した子どもの姿を見ることができました。（後略）
大淀小学校より

10月30日の見学では、けん立図書がんのことがいろいろとわかってよかったです。図書がんの人が読んでくれた本は、はじめて聞いたのでおもしろいなと思いました。いくまえにけん立図書がんにいったことがあったけど、先生がぶつうの人が入れないところに入れるといったので、けん立図書がんにきめました。けん立図書がんにいって、けん立図書がんの本がみやさきけんの人に本のしあわせをあてているみたいだなと思いました。10月30日は、ほんとうにありがとうございました。
大淀小学校2年生

10月22日はとてもお世話になりました。私達は、照葉樹林の本を探していたところ、あまり探せず検索機を使いました。けれど、使い方が分からずに、図書館の人にたのみました。そして、その後も照葉樹林に関する本を見つけてくださったり、「百科事典をひいてみる」ことをアドバイスしてくださったりしました。本当に助かりました。（中略）図書館でいろいろ調べて、「照葉樹林と古い木」のまとめは、よいものができました。ありがとうございました。
広瀬中学校1年生

お便りの中にもあるように、宮崎県の人に本の幸せを伝えられる図書館として、図書館サービスの向上に努めていきたいものです。そして、これからも学校や子ども達の「？」に応えられる図書館でありたいと思っています。

具体的な県立図書館の利用方法については、県立図書館HP「学校支援」のページで紹介しています。どうぞご利用ください！ <http://www.lib.pref.miyazaki.jp/>

新刊図書の選書から配架まで

宮崎県立図書館では、平成5年4月から日本出版販売㈱の「書籍新刊送品システム」を導入し、現在では、新刊図書を、早いものは書店店頭に並んでから2週間以内で利用者の皆様に提供しています。

今回は、「書籍新刊送品システム」を活用した、本館での新刊図書の選書から配架までの流れを御紹介します。

「書籍新刊送品システム」では、全国の出版社から毎日刊行される新刊書のなかから、日本出版販売㈱が県立図書館向けに選定した図書の現物と、その日に発売された新刊情報を印刷した「ライブラリー新刊情報」が、本館へ毎日配達されます。

本館では、送られてきた図書の現物を一週間単位でまとめ、選書・発注・配架しています。

具体的には、月曜日から土曜日までに発送された現物図書を対象に、その週の金曜日の午後から翌週の木曜日の午前中までの実質4日間で選書し、木曜日の午後から金曜日の午前中に発注作業を行います。

発注処理がすんだ図書は、その週の当番になっている協力書店に金曜日中に引き渡します。

現物を受け取った協力書店は、翌週の月曜日までに、図書に図書館資料として必要な装備を施したうえで、本館に納品します。

月曜日に納品された図書は、月曜、火曜で図書館資料としての登録、背ラベル装備を行い、火曜日の午後に閲覧室に配架されます。

このように、「書籍新刊送品システム」で現物が送られてきて選書された図書については、早いものは8日間、遅いものでも15日間で皆様に提供しています。

なお、現物が送られてこない新刊については、「ライブラリー新刊情報」をもとに、内容等を確認し、1週間単位で選書・発注しています。この場合、発注から納品までの期間は、取次会社や出版社によってばらつきがでます。早い場合は1週間程度で納品されますが、遅い場合は1ヶ月以上要する場合もあります。



覚えていますか？「やまびこ」

各地を巡回して50年

1月13日水曜 晴

本館9時やまびこ巡回、最初のスタートである。多くの期待と、歓びと、そして一抹の不安がないでもない。その様な交錯した空気の中を、軽快なテーマ・ソングのリズムに乗って巡回地区に向かう。

延岡市大野公民館（駐車場）着15時。先ず駐車場標識が待ちくたぶれた態よろしく、立てられているのが目につく。待ち受けた多くの男女がどつと押寄せ。嬉しい悲鳴の中に図書の貸出を終え、16時発最初の宿泊北川村へ向かう。17時着。

映写会は19時開催。観客400名。やまびこの周知宣伝方は上々。

（昭和29年の緑陰通信「やまびこ便り」より）

初代「やまびこ」の職員の手記は、こうして始まります。

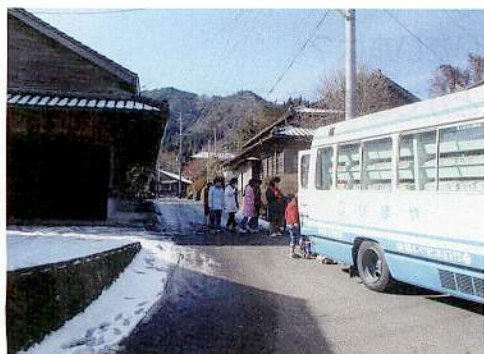
心の糧となる図書を県内各地へ運ぶ、移動図書館車の「やまびこ」は、昭和29年1月その産声を上げ、今年で50周年を迎えます。

誕生した頃の「やまびこ」では、図書を運ぶだけではなく、劇映画、紙芝居、レコードコンサートなどの映画・音楽といった「文化」も各地へ運び、娯楽の少なかった当時は熱狂的に迎えられたようです。

これをご覧になっている方の中にも、「小学生の頃本を借りたことがある」「あの公民館で映画を見た」という方もいらっしゃるのではないのでしょうか。



宮崎大学児童文化部員も同乗して紙芝居（昭和30年代）



五ヶ瀬町立坂本小学校（平成16年1月14日）

その後、時代と共にそのサービス内容は変わりながらも、図書を心待ちにしている方々のために巡回を続け、平成14年度は約4万冊の利用がありました。

今日も、25市町村の図書館・図書室、21のへき地小・中学校、11のPTAへ本を届けるべく、5代目「やまびこ」はエンジン音も高らかに、各地を走っています。

どこかで見かけたら、あの頃のことを思い出して手を振ってください。

「やまびこ」の写真やエピソードなどありましたら情報提供をお願いします。

普及課 地方奉仕係

電話 0985-29-2956 FAX 0985-29-2491

e-mail: fukuYuuka@lib.pref.miyazaki.jp

もっと知りたい方は県立図書館ホームページ
(<http://www.lib.pref.miyazaki.jp/>)

「100年のあゆみ」もご覧ください。

県立図書館では、読書団体の育成と読書普及活動の推進を図るため、貸出文庫（100冊まで自由に選本）と10冊文庫（同じ本を10冊セット）の事業を実施しています。

あれは三年前、「読書週間に子供たちにお話会をしてもらえませんか。」という小学校からの1本の電話がきっかけでした。各家庭で自分の子供に読み聞かせをしていた主婦4人が集まりました。結果は大好評。定期的にお話会をしてくれないかと再び依頼があり、『魔法のとびら』が発足しました。まずはお話会の始まりと終わりの歌作り。子供たちの喜ぶ顔が見たくて、お話会の準備のために何回も集まり、ああでもないこうでもないという学習会を重ねました。その頃この県立図書館の団体文庫のことを知り、早速利用しました。まずはみんなで本を借りに行き、あれやこれやと選ぶ楽しさ。50冊（今は100冊）借りれるので絵本の種類の巾がグーンと広がりました。さらに1ヶ月間借りれるのでじっくりと本が選べ、グループ内での回し読みができます。私たちの活動の原点は、“子供たちの笑顔、安らいだ顔、満足した顔が見たい”です。そのためには、私たちの心が平安で満たされていなければなりません。ですから、生活をより楽しく豊かにするために、絵本ばかりで

なく小説や趣味の本等も借り情報交換を深めております。こうして今は、メンバーも増え、学校だけでなく児童館でのお話会等活動の場を広げています。また最近では、学校図書館と子供たちとの橋渡しにも一役買いたいと、図書館にお話会で読んだ本のコーナーを作ってもらったり、図書館にある本の紹介をしたり、図書館について考える学習会に参加したりしております。

代表 愛甲かおり



レファレンスコーナー（閲覧室から）

あなたも読みたい本と出会ってみませんか！

— あなたの読みたい本を全国の図書館から探すことができます —

懐かしい本、もう一度読みたい本…。あなたにとって出会いたい本は？

全国の公共図書館では、図書館相互で資料の貸借を行うことができるのをご存知ですか？

どこの図書館にどんな本があるのかを調べるためには、「国立国会図書館総合目録ネットワーク」というシステムを使って探すことができます。県立図書館では、探した図書を依頼し送ってもらい、その後貸出しをいたします。（2003年7月より個人の館外貸出を始め多くの方が利用されるようになりました。2003.7～2003.12までの貸出冊数204冊）※ただし、国立国会図書館の図書および貸出館の規定により館外への個人貸出のできない図書は、当館内で閲覧していただくこととなります。

こんな本を探して下さい



調べ学習～ようこそ県立図書館へ

「総合的な学習の時間」が創設されて、県立図書館を調べ学習で利用する学校が増えてきました。今回は、その中のいくつかの事例を紹介します。特に、郷土学習を行う場合県立図書館の郷土資料は役に立つ資料だと思います。みなさん、さっそく利用してみませんか？

調べ学習の質問から

Q 宮崎で人気の「チキン南蛮」はどうやって作られたの？

県内の洋食レストランの先代社長が、長崎の中華料理店で「鯉のあんかけ」にヒントを得て作った料理だそうです。ちなみに、宮崎発祥といえば、「レタス巻き」もあります。レタス巻きは、宮崎市の寿司店のオーナーと友人の作曲家と試行錯誤して作ったものだそうです。仕事で立ち寄ったスチュワーデスさんたちの間で「これはおいしい」と評判になり全国に広まったといわれています。

～参考文献～

『宮崎の食文化誌－照葉樹林と黒潮の恵み』

(鉾脈社)

※宮崎の郷土料理について調べる本として、宮崎のそれぞれの地域が出した本などもあります。



《写真は郷土料理集「おふくろの味百選」編集
(高原町地域婦人連絡協議会)より》
★たかはるの郷土料理のレシピが載っています

Q 宮崎のマンゴーはいつごろから作られるようになったのか？



《写真は「宮崎の果樹2000」
(宮崎県農政水産部)より》

マンゴーの栽培研究は宮崎県総合農業試験場亜熱帯作物支場で昭和51年より始まりました。その後、昭和60年に、西都市にマンゴー部会が発足し、昭和61年に植栽されたそうです。

さて、宮崎の“完熟マンゴー”のおいしさのひみつを知っていますか？マンゴーの実は完全に熟すと、自然に枝から離れて落下する性質があり、落下した果実は香りが増し、果肉も繊維質が減ってやわらかいのだそうです。落下するまでにできるだけ時間をかけ、じっくり熟成させているからこそおいしいのだそうです。

～参考文献～

『M-MOTION Vol.56』1997.6 (J A 宮崎経済連)

『I LOVEみやざき Vol.35』2003 (宮崎県広報広聴課)

※調べものの資料として本だけでなく、新聞・雑誌・パンフレットなど、いろいろな資料をもとに調べ学習のお手伝いをしています。

【レファレンス：reference】とは英語で参照・参考・調査という意味で、調査・研究に必要な資料を紹介したり、本を探すお手伝いや利用者の質問にお答えする仕事です。

図書館雑感



「図書館にお話を聞か きませんか」

寒い寒いと思っていたのに、『つくしが芽を出しました。』『うぐいすの鳴き声を耳にしました。』など、うれしい春の便りが届くようになりました。児童室に訪れる子供たちの声も、一段と弾んでいるように聞こえます。

さて、児童室では、ボランティアの皆さんによる絵本や紙芝居の読み聞かせを、定期的に行っています。参加は自由です。お父さんやお母さんも子供たちと一緒に楽しいひとときを過ごしてみませんか。

～おはなしのへや～

日時 毎週水曜日 3時 ～3時30分
毎週土曜日 3時 ～3時30分(幼児向け)
3時30分～4時 (小学生向け)

場所 児童文化研究室(児童室の奥にある部屋)



「児童室からのお願いです」

児童室には、赤ちゃんをベビーカーに乗せてくるお母さんや、おじいちゃんに手を引かれてやってくるよちよち歩きの子供たちなど、いろんな人がやってきます。それぞれに絵本や図鑑・読み物の本を手にとって、楽しそうにページをめくり、借りていく本を選んでいきます。私たち図書館で働く者は、できるだけ多くの人に多くの本を読んでもらいたいと思っています。そのためにも、本を大切に扱ってほしいと思います。

- 1 本に落書きしたり、やぶいたりしないでください。
- 2 ものを食べたり飲んだりしながら読むのはやめましょう。
- 3 本の返却日は守りましょう。

みんながマナーとルールを守って、気持ちよく本が読めるようにしていきたいものです。



交通機関による来館方法について



体験・調べ学習・見学者一覧

月	団体名	人数
9月	宮崎西中学校(調べ学習・2年生)	49
	東大宮中学校(職場体験・2年生)	2
10月	東大宮中学校(職場体験・2年生)	2
	生目台中学校(職場体験・2年生)	5
	鶴戸中学校(調べ学習・1、3年生)	5
	細野小学校(見学・5年生)	51
	去川小学校(見学・1、2、3、4、6年生)	19
	高鍋西小学校(見学・4年生)	90
	広瀬中学校(調べ学習・1、3年生)	30
	都農小学校(見学・3年生)	51
	山之口小学校(見学・3年生)	51
	有明小学校(見学・4年生)	18
	大淀小学校(見学・2年生)	30
	妻中学校(見学・1年生)	49
	新田中学校(見学・1年生)	63
11月	櫛中学校(職場体験・2年生)	7
	三財小学校(見学・3年生)	31
	住吉中学校(調べ学習・3年生)	6
	紙屋小学校(見学・3、4年生)	37
	妻地区高齢者教室(見学)	14
	附属中学校(図書館利用学習・特殊学級)	13
	宮崎西中学校(調べ学習・2年生)	50
	宮崎第一高校(見学・1、2、3年生)	66
	大宮中学校(調べ学習・1年生)	201
	あおぞら幼稚園(読書)	86
大宮中学校(職場体験・2年生)	3	
宮崎東中学校(職場体験・2年生)	2	
12月	県立盲学校(見学・1年生)	1
1月	生目小学校(見学・5年生)	102
	生目中学校(職場訪問・1年生)	4
	わかば保育園(見学・5歳児)	12
2月	大淀中学校(職場体験)	3
	県立宮崎養護学校(見学・高等部)	54
	宮崎東幼稚園(見学・年長児)	68
(9月以降の来館者合計)		1,275

CALENDAR 県立図書館3～8月の休館日

3月	1	8	15	4月	5	12	19
	20	22	29		26	29	
5月	3	4	10	6月	7	14	21
	17	24	31		28		
7月	5	12	19	8月	2	9	16
	26				23	30	

※特別休館日 5月25日(火)～6月3日(木)